

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25 36	■接遇面について、研修やOJT等を通じ、入居者のプライバシーや尊厳に配慮した声掛け・支援に取り組んでいるが、つい声のトーンが不必要に大きくなってしまったり、職員同士の情報交換を入居者の近くや、入居者に聞こえるような場所で行ってしまったりするケースが見受けられる。	①声掛けや会話の内容に即した、適切な声のトーンを選択できるよう意識付けする。 ②職員同士の申し送りや情報伝達の際は、プライバシーに配慮した伝達方法・場所を選択する。	■ワーカー会議(1回/月)の際、前回会議以降、当日までの①職員の声のトーンが適切だったかどうか②職員間の情報伝達の方法は適切だったかどうか、の2点について評価し、未達成の場合は具体的なケースを挙げて改善策・指導方法を検討し実施する。	6ヶ月
2	13 36 37 38	■職員は一律に「優しさ」を常に持ち介護に当たってくれてはいるが、認知症介護の現場における専門性という点について、改善または学習・習得の余地がある。	①なぜそのケア・声掛けを選択したか、認知症への理解を基に、説明できる。 ②予測される認知症状・特異な言動に対して、事前に阻止・防止できる準備を整えられる。	■ワーカー会議においては認知症研修を中心とした、認知症を理解する機会を設け(実施中)、また朝・夕礼時においては特記事項や報告に上がった個々のケースについて、認知症ケアの理論との整合性を念頭に置いた解決・支援方法を求める。	12ヶ月
3	1	■現状の運営理念は設立当時に設定されたものであり、掲げられてから10年強が経過していることから、現状に即した内容に改変すべき時期にあるのではないか。	①入居者および職員、法人の思いを再度集約し、運営理念を再構築する。	■現状、ホームを取り巻く環境や入居者の生活スタイルを鑑み、利用者・職員が共有できる平易かつ「想いの詰まった」運営理念を作成する。	3ヶ月
4					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。